

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きますね。そのようなとき、食卓に旬の花でも飾ってみてはいかがでしょうか。

県内では、下関市や瀬戸内海側を中心にばら、カーネーション、ユリなどが、全県できくが生産されています。

平成22（2010）年花き生産出荷統計によると、山口県の出荷量は切り花で3,890万本、全国32位でした。内訳はバラ（16.8%）、輪ギク（13.4%）、カーネーション（9.8%）、小ギク（9.0%）と、4種類の切り花が約半数を占めています。しかし近年は、全国的にも山口県も出荷量は減少傾向にあります。

こうしたなか、県では、消費者の多様なニーズに応えられるよう新たな品種の開発に取り組んでいます。

代表的なものが小型のユリ「プチソレイユ」です。オレンジ色の小さな花が特徴で、ユリ特有の強い香りもなく、フラワーアレンジがしやすい、日々の生活の彩りにぴったりの花です。昨年は「やまぐちブランド」にも登録され、県内を中心に関西方面などにも出荷されています。

「やまぐちブランド」は、県内で生産される農林水産物や主な原材料が県産100%の加工品を対象に、味や品質を重視した独自の基準により厳選した商品です。「萩たまげなす」や「長州黒かしわ」など54商品が登録（平成25年12月末現在）され、より多くの方に消費していただけるよう県内外に幅広く魅力を情報発信しています。

やまぐちブランドなど、県産品の消費拡大を県民の皆さんも応援してくださいね。

